

## 第1号報告

### 令和3年度 事業報告書

#### 第1 はじめに

令和3年度も、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は収束せず、令和3(2021)年1月に発効した核兵器禁止条約の第1回締約国会議と核不拡散条約(NPT)再検討会議も延期が続き、今年6月と8月にそれぞれ開催が予定されている。

このような状況の中、令和4(2022)年1月に核保有5か国が「核戦争に勝者はなく決して核戦争をしてはならない」と共同声明を発出したにも関わらず、2月24日にロシアがウクライナに軍事侵攻し、現在も戦争状態が続き長期化が懸念されている。

ロシアのプーチン大統領は”核兵器使用“を示唆する発言を繰り返しており、国内では核共有論まで起きている状況にある。

当協会では、この軍事侵攻が続く中で核戦力を念頭においた威嚇などがなされていることを強く非難し、対話と外交により平和的解決の道を探ることを求める理事長コメントを出すとともに継承部会の被爆者の思いを「いま世界に届けたい被爆者の言葉」としてSNSで発信している。

長崎市でも新型コロナウイルスの感染拡大が続き、感染レベルが上がるたびに原爆資料館、平和会館、また当協会が管理運営する国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館も臨時休館を繰り返すこととなった。それに併せて平和案内人の常駐ガイドや朗読ボランティアの常駐朗読、継承部会員による被爆体験講話も中止を余儀なくされ、多くの事業はオンラインや対面とのハイブリッドによる限定的な方法などによる開催となった。

長崎市からの受託事業である「青少年ピースボランティア」「青少年ピースフォーラム」「青少年平和交流」並びに追悼平和祈念館が実施している「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」等は、オンラインを活用して開催した。

ホームページには、新たに「原爆慰霊碑のめぐり方」や青少年ピースボランティアによる「千羽鶴」合唱動画などの動画を掲載するとともに、Instagram、YouTube、Facebook、LINE等のSNSを活用した情報発信に積極的に取り組んだ。

また、貸出用の原爆被災写真パネルをリニューアルするとともに、令和2年度に引き続き被爆者証言ビデオを制作するなど平和学習教材の充実に努めた。

連携協定を結んでいる国際基督教大学とは、夏に学生を受け入れて長崎での研修とボランティア活動を支援し、12月には県外原爆・平和展として学生が主体となってオンラインで被爆体験講話とバーチャル資料展を開催した。また、福島県双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館でも、福島と長崎の繋がりを含めた展示とオンラインで被爆体験講話を実施した。

追悼平和祈念館では、「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業に取り組み、令和3年度は、県内外から「被爆前の長崎」をテーマとした写真を収集し、写真を活用した映像教材制作などを長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)に委託して行った。

## 第2 令和3年度の事業

当協会の事業は、公益目的事業である「1 平和推進事業」「2 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業」「3 収益事業（図書等販売）」の3事業であり、令和3年度の各事業の実施状況は、次のとおりである。

### 1 平和推進事業

「核兵器の廃絶」と「世界恒久平和の実現」に向けて、平和への認識をさらに深めてもらうために、財政基盤の確立と円滑な事業運営を図りつつ、次の事業を実施した。

#### (1) 発刊事業

##### ①会報「へいわ」の発行

- ・年4回発行（令和4年3月末現在173号、1回あたり2,300部発行）

##### ②ブックレット「平和のあゆみ」の発行

- ・年1回、1,700部発行

##### ③広報活動

- ・情報BOX（毎月150部発行）：協会役員、各部会員等へ郵送。協会HPに掲載
- ・会員入会案内リーフレット：イベント開催時、ネット販売送付時等に配布
- ・協会ホームページ：被爆体験講話・平和案内人等申込方法案内等の情報  
協会発行の出版物やオリジナル商品などのインターネット販売
- ・SNS：LINE 協会イベント等の情報発信（月4回程度投稿）  
Instagram 青少年ピースボランティアの活動紹介、連続企画等発信（182投稿）  
YouTube 「慰霊碑ウォークマップ」の歩き方などの動画発信（17投稿）  
Facebook 追悼祈念館の情報を発信（32投稿）

#### (2) 啓発事業

##### ①平和学習：被爆体験講話者（継承部会員）派遣

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月28日～6月7日、8月10日～9月12日、1月21日～3月6日の間、被爆体験講話の実施を中止した。

講話者と聴講者の間に2メートル以上の間隔を空けた上でアクリル板を設置し、双方ともにマスク又はマウスシールドを着用し、座席の消毒等、部屋の換気など徹底した感染対策に取り組みながら活動を実施した。また、修学旅行等の団体に対して、出席者の検温等の健康管理をお願いするとともに、講話者に対しても事前に検温等の健康確認を行った。

令和2年度に引き続き、修学旅行を中止した団体等に対し、オンラインでの講話を実施した。（オンライン件数：18件）

また、継承部会員による被爆体験講話が急遽実施できなくなった場合の代替案や貸出用として活用する被爆者証言ビデオ4本を令和2年度に引き続き制作しホームページに掲載した。

<被爆体験講話の実績（学校・団体）>

区 分	実施件数	受講人数	摘 要
令和元年度	1,168 件	162,688 人	
令和2年度	495 件	42,355 人	コロナ禍
令和3年度	695 件	75,056 人	コロナ禍

<令和3年度の内訳>

区 分	実施件数	うち市内	オンライン	受講人数
小学校	372 件	56 件	3 件	31,685 人
中学校	170 件	15 件	4 件	21,681 人
高等学校	133 件	2 件	9 件	20,054 人
一 般	20 件	0 件	2 件	1,636 人
計	695 件	73 件	18 件	75,056 人

※「うち市内」は、長崎市内の小学校・中学校・高校・一般の講話件数

ア 被爆体験講話者派遣事業（長崎県主催事業）

県内：諫早市、西海市、長与町、松浦市、佐々町、佐世保市、島原市

イ 被爆者証言ビデオ

継承部会員による被爆体験講話が急遽できなくなった場合の代替案や貸出用として活用する被爆者証言ビデオを制作した。

・被爆者4人撮影：田川博康氏、羽田麗子氏、丸田和男氏、山田一美氏

※「8月9日の記憶」約15分/人（令和2年度からの累計：8人）

②原爆被災写真パネル・DVD（ビデオ）の貸出

令和3年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、修学旅行を実施できなかった学校などから利用申請が寄せられた。

原爆被災写真パネルの写真を入れ替えて新たに作成した。更に子ども用のパネルもキャプションの文字を大きくし、内容を分かりやすくして作成した。

<令和3年度の貸出状況>

区 分	写真パネル	DVD（ビデオ）	
	件数	件数	本数
小 学 校	4 件	14 件	34 本
中 学 校	1 件	19 件	49 本
高等学校	2 件	28 件	63 本
一 般	8 件	17 件	30 本
計	15 件	78 件	176 本

③講演会等の開催

被爆75周年事業の「設立記念事業講演会」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、次年度に繰り越しとなった。

④国連軍縮週間行事「市民のつどい」

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年度に撮影した被爆証言や青少年ピースボランティアによる「千羽鶴」合唱動画の映像上映ほか、原爆写真パネル、協会・追悼平和祈念館活動紹介パネルなど、様々な展示を行った。

- ・開催日：令和3年10月30日(土)10:00~13:00
- ・場所：原爆資料館前階段下広場
- ・来場者：約300人

⑤「平和への思い」発信・交流・継承事業

(特定非営利活動法人 沖縄平和協力センターからの受託事業)

沖縄県平和祈念資料館の主催する「令和3年度『平和への思い』発信・交流・継承事業」について、受託事業者である特定非営利活動法人沖縄平和協力センターを介し、長崎における学生募集の窓口機関として、長崎在住の大学生の参加に伴う5人の学生の募集・選考、事前・事後学習、沖縄への研修の帯同などを行った。

- ・派遣学習：令和3年11月21日(日)~28日(日)
- ・事前学習：令和3年10月~11月
- ・事後学習：令和3年12月に学生が作成した教材を提出

(3) 継承事業 (長崎市からの受託事業)

①「県外原爆・平和展」

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、1都市の展示中止や継承部会員等の現地への派遣を中止する中で実施した。

国際基督教大学は、現地での開催を中止し、学生が主体となって、オンラインで被爆体験講話とバーチャル資料展を開催した。

東日本大震災・原子力災害伝承館では、福島と長崎の繋がりのパネルを含めた展示とオンラインで被爆体験講話を実施した。

今回、新たな展示パネルとして、「次世代への継承の取り組みの展示」と「核兵器廃絶に向けた市民社会の動きの展示」を作成し、展示した。

<令和3年度県外原爆・平和展の開催内容>

富山県 高岡市	開催時期	①7月9日~7月11日 ②7月12日~7月16日(8日間)	
	展示会場	①ウイング・ウイング高岡 ②高岡市役所	原爆展見学 ①322人 ②591人
鳥取県 鳥取市 倉吉市	開催時期	①7月9日~7月11日、7月13日~7月15日(6日間) ②7月21日~26日(6日間)	
	展示会場	①とりぎん文化会館フリースペース ②コミュニティプラザ百花堂	写真パネル 展見学 ①124人 ②70人
※米子市で原爆展を予定だったがコロナ感染拡大に伴いR4年度に延期			

福島県 双葉町	開催時期	3月5日～3月21日（15日間）		
	展示会場	東日本大震災・原子力災害伝承館	写真パネル 展見学	2,886人
国際基督教大学	12月23日「被爆体験講話」「バーチャル資料展」 オンライン開催	聴講者	約30人	

## ②語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一定期間、定期講話や長崎市内への派遣講話を中止した。また、感染対策を行いながら、聞き取りや講話原稿・資料作成などの支援や交流会やデジタル機器を活用した講話方法の研修などを実施した。

### ア 登録者数及び講話者数（令和4年3月31日現在）

登録者 129人、うち講話者延 52人（実人数 48人）

### イ 講話実施回数

区分	市内	市外	県外	合計
令和元年度	60件	15件	89件	164件
令和2年度	68件	6件	36件	110件
令和3年度	105件	13件	48件	166件

### ウ 主な事業内容

- ・交流会の開催 令和3年9月18日（土）、19日（日） 参加者数 22人
- ・各種研修会の開催（原爆や核についての講座、話し方研修、パソコン研修等）
- ・動画作成（被爆者4人分）
- ・審査会の開催 5件

## ③青少年ピースボランティア育成事業

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、オンラインと対面を併用し活動を実施した。様々な視点で平和を発信するため、自主企画グループ活動として、「千羽鶴」合唱動画の制作や英語、朗読・紙芝居などのチームを結成し、活動を実施している。

### ア 対象：15歳（中学生除く）以上30歳未満の青少年

### イ 登録者：171人（令和4年3月31日現在）

（内訳：高校生71人、大学生40人、社会人15人、その他45人）

### ウ 主な事業内容

- ・平和学習（月1回程度）：被爆の実相や平和に関する諸問題の学習
- ・青少年ピースフォーラム（オンライン）への参加及びその準備
- ・平和祈念式典や市民大行進等平和関連行事でのボランティア活動

- ・「自主プロジェクト」の実施
- ・県内平和関連施設見学
  - 「長崎県北部（佐世保・川棚）バスツアー」 令和4年3月13日（日）
- ・派遣研修（新型コロナウイルスの感染拡大を受け、鹿児島研修を中止、広島研修をオンラインで実施）
  - 「広島研修」 令和4年3月21日（月・祝）

#### ④青少年ピースフォーラム

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各自治体とオンラインでつないで、2日間にわたり実施した。

ア 日 時：令和3年8月8日（日・祝）14時00分～18時00分

令和3年8月9日（月・休）13時30分～15時30分

イ 自治体数：19団体（長崎市含む）

ウ 参加者数：224人 ※うちピースボランティア46人

エ 主な内容

- ・被爆体験講話
- ・青少年ピースボランティアによる被爆の実相説明  
（動画やスライドによる説明、被爆遺構などの現地からの生中継ガイド、紙芝居）
- ・グループに分かれての意見交換
- ・青少年ピースボランティア「千羽鶴」合唱動画の配信

#### ⑤青少年平和交流

新型コロナウイルスの感染拡大を受け現地派遣は中止し、オンラインプログラムに切り替え参加定員は設けず、ハワイとの交流をオンラインで実施した。

《事前研修》

ア 長崎原爆・核兵器に関する学習

- ・被爆体験講話
- ・長崎原爆資料館見学（解説動画視聴）
- ・世界の核兵器の現状、核兵器禁止条約、国際社会の取り組みについて

イ ハワイに関する学習

- ・米国ハワイの歴史文化と多文化共生
- ・第2次世界大戦下におけるハワイ日系人の強制収容・日系人兵士について

ウ 英語研修・その他

- ・英語ディスカッション学習会
- ・紙芝居朗読練習

《ハワイ（米国）との交流（オンライン）》

ア 令和3年9月26日（日）プレセミナー

ハワイ大学マツナガ平和研究所の紹介・現地教育機関の代表による教育・歴史認識等に関する説明、振り返り・アクティビティ

イ 令和3年10月17日（日）メインセミナー

パールハーバー・バーチャルツアー、日系2世退役軍人のレガシー、真珠湾攻撃の目撃者と長崎の被爆者による講話・対話、長崎の高校生による英語での紙芝居朗読、長崎・ハワイ双方の学生による意見交換

⑥平和学習発表会 ※令和3年度より受託

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となり、参加予定であった中学校より発表資料を集め、「令和3年度平和学習発表会 発表資料集」として冊子にまとめ、長崎市内の全中学校に配布した。

#### （4）調査研究

①国際平和シンポジウム（理事長、事務局長出席）

開催日：令和3年7月31日（土）

場 所：広島国際会議場

主 催：広島市、（公財）広島平和文化センター、朝日新聞社

後 援：長崎市、（公財）長崎平和推進協会、広島県、長崎県、広島ホームテレビ、長崎文化放送

講 演：「核兵器禁止条約は世界をどう変えるか」中満泉さん

討 論：中満泉さん、ローズ・ゴットメラーさん、中西寛さん、安田菜津紀さん

懇 談：「戦争体験を未来につなぐ」宝田明さん、高橋悠太さん、中村涼香さん

#### （5）育成事業

①部会活動

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため様々な活動に制約がある中、三密を避け対策を講じながら協会会員で組織する4部会の活動を行った。

ア 継承部会(41人)：修学旅行生等を対象とした被爆体験講話の他、計7班の調査・協議等に係る自主活動として、被爆体験の深化講座の開催、継承部会つうしんの発行、海外とのオンラインによる講話などを実施した。

イ 写真資料調査部会(9人)：被爆写真や資料の収集・分類整理、原爆写真展の開催の他、長崎市から国立公文書館資料検証業務を受託して検証作業等を行った。

被爆76周年 ナガサキ原爆展として、7月21～25日にAI技術等でカラー化された被爆前後の広島・長崎の写真や、未公開写真やパノラマ写真を展示した。

ウ 国際交流部会(24人)：毎月例会を開催し、地元の外国人との相互理解を深めている。

エ 音楽部会(17人)：平和音楽祭の開催の協力をした。

## ②平和案内人育成・派遣事業

新型コロナウイルス感染状況を見ながら、一定期間活動中止の対応を行った。また、ガイドの際には、感染防止対策を行いつつ実施した。

第1期生から第7期生まで、現在、平和案内人163人が登録し、活動している。

### 《活動内容》

- ・長崎原爆資料館の常駐ガイド（無料）

長崎原爆資料館や追悼平和祈念館の館内を無料で案内

※4月21日～6月23日、7月31日～9月24日、1月15日～3月28日は中止

- ・長崎原爆資料館予約ガイド（有料：1,500円）

事前に申し込みがあった場合、館内を有料で案内

※4月28日～6月7日、8月10日～9月12日、1月15日～3月6日は中止

- ・碑めぐりガイド（有料：1,500円）

事前に申し込みがあった場合、平和公園や周辺の被爆建造物等、希望に応じた箇所を有料で案内

※4月28日～6月7日、8月10日～9月12日、1月15日～3月6日は中止

### 《全体会など》

令和3年度は、感染対策を講じながら、下記の内容で全体会を実施した。

4月17日 「原爆で消えた長崎の地図」講師：布袋厚、松田斉

10月17日 「理事長就任にあたって」講師：調漸

### ＜平和案内人活動実績＞

区 分	利 用 者 数				活動人数 (延)
	原爆資料館 常駐ガイド	予約ガイド		計	
		資料館内	碑めぐり		
令和元年度	8,999人	2,234人	8,704人	19,937人	2,504人
令和2年度	2,345人	514人	2,704人	5,563人	1,136人
令和3年度	1,918人	688人	3,939人	6,545人	1,098人

## ③アジア青年平和交流事業

長崎の若者（大学生・高校生）に、平和に関する自由な発想の「企画」を募集し、3事業を認定した。

- ・発表・審査会 令和3年9月5日〔平和交流スペース〕
- ・成果報告会 令和4年3月13日〔追悼平和祈念館交流ラウンジ〕

### 《事業内容》

#### 長崎純心大学 DBS

中国・大連大学と、台湾の文藻外語大学（長崎純心大学の姉妹校）の日本語学科の学生らと、オンラインで平和をテーマとした対話を行った。平和についての考え方、平和を実現するために若者がどのように貢献できるかを話し合い、共同宣言文を作成した。

## 活水高等学校 平和学習部

「RE: EARTH を世界に」として、長崎新聞「私の被爆ノート」から、被爆当時に少女だった13人分の被爆証言を英訳した。Google マップ上でそれぞれの被爆地点に英訳した証言を貼り付けて公開したことにより、世界中どこからでも読めるようにした。

## 長崎大学 学生国際 NGO BOAT

貧困地域におけるボランティア活動などを通して、世界の貧困状況について身をもって学ぶとともに貧困地域の人たちに対してできることを考えるため、ラオスを訪問する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施を中止した。

### ④平和事業支援（共催・協力・後援事業）

#### 令和3年度 共催事業

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所	共催金
1	第36回長崎平和音楽祭	長崎平和音楽祭実行委員会	8月1日	原爆資料館ホール	100,000円
2	第13回 ～語り合おう in Nagasaki～ 外国人による日本語弁論大会	外国人による日本語弁論大会実行委員会	11月6日	追悼平和祈念館交流ラウンジ	100,000円

#### 令和3年度 協力事業

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所	協力金
1	ナガサキ・土崎被爆証言講話会	秋田市	7月14日～28日	オンライン他	

#### 令和3年度 後援事業

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所	協力金
1	ドキュメンタリー映画を観る会「ヒロシマへの誓い サローロ 節子とともに」上映会	長崎県映画センター	6月27日～7月25日	長崎県内	
2	ナガサキ映画と朗読プロジェクト	ナガサキ映画と朗読プロジェクト実行委員会	7月24日～25日	原爆資料館ホール	
3	第13回紙しばい発表会	紙しばい会	7月25日	原爆資料館平和学習室	
4	国際平和シンポジウム2021「核兵器廃絶への道」	広島市、広島平和文化センター、朝日新聞社	7月31日	広島国際会議場	
5	第68回長崎原爆忌平和祈念俳句大会	長崎原爆忌平和祈念俳句大会実行委員会	7月31日	原爆資料館平和学習室	3,960円（賞楯）
6	第59回 原爆忌文芸大会	特定非営利活動法人長崎国際文化協会	8月2～10日（展示） 8月7日（大会）	長崎ブリックホール	10,000円

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所	協力金
7	新作能「長崎の聖母」「ヤコブの井戸」	公益社団法人 鏡仙会	8月4～8日	座・高円寺	
8	開港450周年記念「平和の祈りキッズゲルニカ in ながさき」国際子ども平和壁画展	長崎親善人形の会 (瓊子の会)	8月6日 ～31日	原爆落下中心地公園 下の川	
9	被爆76年 連合2021 平和ナガサキ集会	日本労働組合総連合会	8月8日	長崎県立総合体育館	
10	2021 ピースアクション in ナガサキ 虹のひろば	長崎県生活協同組合連合会	8月8日	NBC ソシア	
11	映画「祈り～幻に長崎を想う刻～」	映画「祈り」を応援する会	8月13日 ～9月30日	ユナイテッドシネマ長崎	
12	被爆者のいまを伝えよう フォトグラファー体験事業	Studio One Nagasaki	9月1日 ～3月31日	長崎市内	
13	「核なき世界基金」ワークショップ「世界のヒバクシャとともに」-支援のあり方を考える	核なき世界基金	10月30日	長崎市平和会館ホール	
14	川村奈美子ピアノリサイタル～平和を願って～	一般社団法人アルテ・クラシカ協会	11月6日	長崎NBCビデオホール	
15	ナガサキの悲劇を音楽と朗読で紡ぐ日	一般社団法人ナガサキの郵便配達制作プロジェクト	11月22日	日比谷図書文化館日比谷コンベンションホール	
16	第43回 長崎YMCA 「平和の使者」クリスマスカードコンテスト	長崎YMCA 長崎ワイズメンズクラブ	11月26日 ～ 12月27日	長崎YMCA ほか	
17	東日本大震災・原子力災害伝承館 長崎特別展示	東日本大震災・原子力災害伝承館	12月3日 ～19日	追悼平和祈念館交流ラウンジ	
18	長崎から世界へ「ピースなTシャツ」デザイン募集	(有)ナカノコーポレーション T-Shirt shop ナカノ	12月16日 ～1月31日	オンライン企画	
19	長崎を最後の被爆地に！朗読劇	長崎を最後の被爆地に！朗読劇の会	12月25日	原爆資料館ホール	

### ⑤秋月グラント（助成制度）

No.	事業名	主催団体	開催日	助成金
1	Pray for Peace Collection 2021 in 長崎	Pray for Peace Collection 2021 in 長崎実行委員会	8月9日	200,000円

## 2 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、平成 15 年 7 月の開館以来、国（厚生労働省）から当協会が施設の管理及び事業運営を受託している。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、3 回にわたり計 120 日間臨時休館した。

令和 2 年度同様、開館時は、施設の各入口にサーマルカメラ（検温）・消毒液の設置、館内一方通行、最小限度（リーフレットや祈念館の主催事業チラシ等）の館内配布物の設置、交流ラウンジの距離をとった椅子の配置、総合案内の亚克力板設置などの徹底した感染拡大防止対策を講じ、令和 3 年度は新たに UV 殺菌付の空気清浄機も設置した。

祈念館の各事業は、新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、事業の円滑な遂行に努めた。

### （1）追悼平和祈念館入館者数の推移

年 度	入館者数	対前年度増▲減	摘 要
令和元年度	147,467 人	8,362 人増 (6.0%)	2/29~3/31 臨時休館
令和 2 年度	57,917 人	89,550 人減 (▲60.7%)	4/1~5/31 臨時休館
令和 3 年度	60,600 人	2,683 人増 (4.6%)	4/28~6/7 8/10~9/12 1/21~3/6 臨時休館

### （2）追悼平和祈念館の主な事業（令和 3 年度）

#### ① 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開及び死没者名簿の保管

・令和 3 年度：305 人

令和 3 年度は福岡県、佐賀県、熊本県を通じて原爆死没者の氏名・遺影の登録について周知を行い、登録数の増加に努めた。

#### ② 被爆体験記等の収集・整理・公開

・令和 3 年度：36 人

#### ③ 企画展の開催（収集した被爆体験記等の展示・公開）

・第 11 回体験記企画展「浦上の記憶」

令和 3 年度は、爆心地、浦上地区に関係のある体験記をとりあげた。会場では体験記執筆者の証言映像の放映、トークイベントも実施した。

#### ④ 被爆体験記の執筆補助

・令和 3 年度：21 人

令和 3 年度は完成した体験記の被爆者を招いて、朗読ボランティアなどとの意見交流会「語り継ぐ交流会」を 2 回実施した。

#### ⑤ 被爆証言ビデオの制作

・令和 3 年度：10 人（うち海外 3 人）

⑥被ばく医療関連情報の収集・整理・提供

- ・令和3年度の被爆者健康講話：6回

(※対面での実施は中止とし、講師の先生が大学内で録画したものを祈念館ホームページに掲載。)

⑦平和関連情報の収集・整理・提供

⑧海外原爆展の開催

令和3年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、職員および被爆者の渡航は中止し、パネル写真等の展示のみの実施とした。なお、被爆体験講話については、オンラインで行った。

- ・開催場所 シーボルト博物館（ドイツ・ヴェルツブルク市）
- ・開催期間 令和3年10月1日～11月28日
- ・来場者数 350人

(会期中、ドイツ国内で外出自粛期間等があったため、来場者数が少なかった。)

⑨多言語化対応事業

- ・英語・中国語・韓国語等への翻訳、インターネットでの公開

⑩外国語講座の開催（平和ボランティア育成外国語講座：英語・中国語・韓国語）

- ・令和3年度：英語9人、韓国語10人、中国語8人が修了

⑪被爆体験記の朗読事業

- ・「被爆体験記を語り継ぐ永遠（とわ）の会」の派遣、朗読会の開催  
令和3年度：常駐朗読48回、定期朗読会5回、派遣朗読31回

⑫家族・交流証言者等の派遣および語学等の研修

- ・家族・交流証言者および永遠の会の長崎市外への派遣95回（うち海外1回：オンライン）
- ・被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修の実施（オンラインによる研修）

⑬インターネット会議システムによる平和学習・交流（ピースネット）

- ・令和3年度：55回実施（うち海外5回）

⑭修学講習の実施（追悼平和祈念館内における被爆体験講話）

⑮インターネットによる情報提供（グローバルネット等：広島館と協同）

⑯情報展示システムの保守・管理

⑰平和・国際交流ネットワーク構築（アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム）

- ・令和3年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、海外（マレーシアや韓国）からの招聘を中止し、オンラインで実施。オンライン参加者：計40人

⑱国際平和映画祭の開催

- ・令和3年度：3作品の上映のほか、「Sakura&Pearls」に出演した広島、長崎の被爆者とジョージ・K・ハンター監督によるオンライントークセッションも行った。

- ・実施日：令和3年12月19日
- ・来場者数：144人

※上映作品（令和3年度）

「NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘」

「ヒロシマへの誓い～サーロー節子とともに～」(2回上映)、

「Sakura&Pearls : Healing from World War II : サクラと真珠 第二次世界大戦からの癒し」

⑲「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業

- ・令和3年度は、県内外から「被爆前の長崎」をテーマとした写真を収集し、その写

真を活用した映像教材制作や、米軍の航空写真を使った爆心地周辺のデジタルマップの制作に着手した。

⑳ 祈念館施設・設備の維持管理

### 3 収益事業（図書等販売）

平和推進事業の実施に必要な自主財源を確保するために、原爆に関する書籍や平和グッズを作製し、原爆資料館の売店、協会ウェブサイト、市内の書店で販売している。

令和3年度は「長崎原爆資料館 資料館見学・被爆地めぐり「平和学習」の手引書を改訂して発行した。また、長崎から世界へ「ピースなTシャツ」デザインコンペに協力し、最優秀賞作品のデザインを使用したTシャツを販売した。

### 4 法人の管理運営に係る費用（法人会計）

社会保険労務士、税理士等の専門家から助言を受けて、法人運営を的確に運営するとともに、法人の理事会、評議員会、各種委員会等を開催した。協会の効率的な運営や議論の活発化を図るため、任期満了となった理事の人数を10人程度に見直しをした。

また、起案文書の作成、就業規則の改正、デジタル資料の活用などの研修会、勤怠管理システム導入説明会を実施することで、協会職員のスキル（事務処理能力）の向上に努めた。

---

#### （附属明細書）

令和3年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。